

1 目的

本校では、『つながり』を意識した実践を学校目標に掲げてきました。『つながり』は、児童と教職員、そして、保護者や地域との連携だけでなく、児童同士のつながり、上級生から下級生へのつながり、また、学習や行事等をつなぎ、児童個々の内面での成長などに関わる言葉です。さらに『つながり』を継続的に意識させることで、綿々と続く学校の文化・伝統として引き継がれるものと考えています。

2 内容

(1) 児童個々の成長をつなぐ

ア 繰り返し学習

学力定着を図るために、読み・書き・計算は欠かせないもので、全教科の土台となります。週の計画に位置づけた朝学習（火曜：算数 木曜：国語）において、既習事項を確実に積み重ねるよう、児童の実態に合わせ、学年ごとに工夫して反復練習に力を注いでいます。また、各教科において、対話をつなぐ言葉かけ・働きかけを追求しています。ICT 機器（タブレット）を効果的に活用し、ドリル学習だけでなく、グループでの話し合いを通して自身の考えを深めていけるような授業展開を工夫して取り組みました。

イ Q-U 研修会

応用教育研究所の杉村秀充先生を招いた研修会では、実際に自分が担任している学級の Q-U シートを分析しました。データの見方や児童一人一人についての理解や対応方法、今後の学級経営の方向性や留意すべきことについて、一つ一つ丁寧にわかりやすく説明していただき、児童理解を深めるために多くのことを学ぶことができました。

ウ 特別支援教育研修会

津島市教育委員会の長谷川修三先生を招いた研修会では、特別支援学級だけでなく通常学級での個別な支援を必要とする場合の対応について、学校と児童を取り巻く課題を交えながら具体的に説明していただき、児童理解につなげ、指導力の向上に生かすことができました。

(2) 心や命をつなぐ

ア キャリア教育（職業講話）

11月、6年生を対象に地域のさまざまな仕事に従事している方を講師として6名お招きし、働くことのやりがいや楽しさ、誇り、苦勞、喜び、大切にしていることなどについて講話をしていただきました。児童は、自分の興味・関心のある職業を3つ選び、その講話を一語一語聞き漏らさないようにメモを取りながら、熱心に聞き入って、とても有意義な時間を過ごすことができました。

また、学習の発表の日には、働くことの意味について考え、今の自分を見つめ直し、今後の生き方について深く考える事の大切さについて発表することができました。



キャリア教育「働く」を学ぶ

イ 人権教育

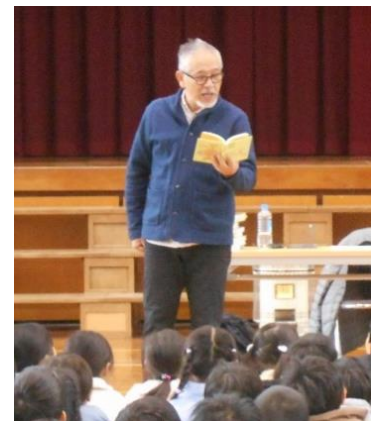
2年前にも来ていただいた、子どもの本専門店「メリーゴーランド」店主の増田 喜昭さんを講師に迎えて人権講演会を実施しました。人権にまつわる絵本の読み聞かせを行っていただきながら、児童に本との出会いから人生は広がり、目標や夢を叶えることができるなど、熱い思いを児童へ語っていただきました。

初めの低学年の部では、小さい頃よく遊ばれていた、コマ回しのパフォーマンスの披露をしていただきました。児童は、その技に驚き、一瞬の間に心を引きつけられていました。その後の本の読み聞かせ（紹介）でも、児童がずっと聞いていたいと思う本を次々と紹介していただきました。増田さんとのやりとりを、児童はとても楽しみながら真剣に聞いていました。

高学年の部では、「本と人間の間には何かある」と子どもたちを惹きつけ、「まずは好きな本を見つけること」「子どものうちにたくさん想像をすること」「昔読んだ本は何十年たっても忘れず、新しく楽しむことができること」など、本との出会いの大切さを、たくさん教えていただきました。

また、読み聞かせボランティア「おはなしトロ」のメンバーや保護者の方にも講演会に参加していただきました。子どもたちと共に講演会を楽しみ、増田さんと絵本について交流を深める姿も見られました。

何よりも、増田さんの人柄が、児童の心をつかみ、引きつけていることがよくわかりました。講演会後も、増田さんのこれまでの大切な人との出会い、大切な本との出会い、これから先、児童に身につけてほしい力など、たくさんのお話を聞かせていただきました。



増田喜昭さんの読み聞かせ

3 評価

今年度も、時代に合った授業や行事の在り方を模索しながら、職員内で知恵を出し合って教育活動を進めてきました。

学習面においては、ICT 機器を積極的に活用することで、グループ活動や自らの考えを深める一助となりました。また、タブレット端末を用いた研究授業等を通してデジタル・アナログのメリット・デメリットについて、教職員同士で話し合いを重ねました。今後もこれらの取組を、児童一人一人の成長や効果的な活用方法につなげていきたいと思います。

また、さまざまな「つなぐ」取組として、Q-Uの結果を受け二者懇談（教師と児童）を実施して児童理解に努めることで、交友関係の悩みを早期発見することができ、早期に対応することができました。また、地域人材を活用したキャリア教育（職業講話）や人権講演会の実施により、児童の心の成長だけでなく、それを支える教師の指導力を高めることにもつながりました。

4 課題

次年度も、安全で安心できる学校づくりを目指す中で、児童一人一人が多くの学びができるよう、教職員、保護者、そして地域と連携・協働しながら、児童の実態に合った教育活動を模索していきたいと考えます。